

## 雨庭とは

### 雨庭（雨水貯留浸透式庭園型緑地）

雨庭とは、道路などから集めた雨水を一時的に貯留し一定の時間をかけて地中に浸透させる機能を持つ緑地のことです。

また、庭園都市・京都に相応しい庭園景観を備えた緑地でもある京都型のGIです。

## 協会の役割

当協会は、伝統的な庭園技術をフルに発揮して公園や道路等への良質な雨庭整備を全力でバックアップしています。

また、緑地の持つ治水機能を適切に高めると共に京都の庭園文化を身近に体感できるデザイン性豊かな雨庭の実現を目指しています。

京都市の第1号雨庭（四条堀川南東角）については、“みどり”を活用した水害軽減・景観向上を目指し、2017年から貯留浸透構造・修景デザイン・施工管理等について京都市に協力し、2018年3月に完成しました。

今後も「緑の文化首都・京都、安全安心なまち・京都」の実現に向け京都型グリーンチャレンジ”雨庭”の整備促進に協力して参ります。

#### ◆GI(グリーンインフラ)

緑など自然が持つ機能を活かした社会資本整備・土地利用のこと。(グレーインフラとの対比)  
横浜市の都市公園や札幌市の道路植樹帯等でも取組が進められています。

#### ◆グリーンチャレンジ

グリーンインフラによる雨水貯留・浸透の推進、都市緑化の推進、生態系ネットワークの保全・再生・活用、健全な水循環の確保などのグリーンインフラを活用した自然共生地域づくりを目指す国の施策

#### ◆治水効果の最適化

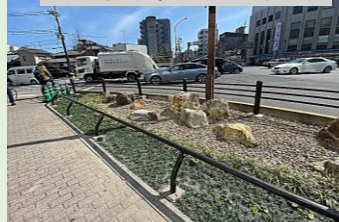
雨庭の治水効果を高めるためには、広範囲に分散して多数配置することが重要とのことです。  
(森本幸裕京都大学名誉教授)

## 京都市内の雨庭

四条堀川南東角 2018年3月



西大路四条 2021年3月



東山区六原 2021年3月



東本願寺前緑地 2023年3月



九条大石橋 2023年3月



東大路仁王門 2023年3月



# 雨庭 あめにわ 8

## 水害防止＋景観向上

～雨水貯留浸透式庭園型緑地～

四条堀川北西角 2020年3月



北野白梅町 2022年3月



## 一般社団法人 京都造園建設業協会

住所 〒604-0934

京都市中京区麩屋町通二条下る尾張町 231  
二条麩屋町ビューハイツ 2-4

電話 075-256-1956

FAX 075-251-0216

URL <http://kyotofuzoen.or.jp>

Email [zoen@mint.ocn.ne.jp](mailto:zoen@mint.ocn.ne.jp)

交通 地下鉄東西線；京都市役所前駅 9番出入口  
徒歩 3分

2024年1月



# 庭園型植栽(雨水貯留浸透緑地)がまちを水害から守る「雨庭(あめにわ)」

～京の都を水害から守り抜いた古の庭園技術を現代に再現～

## 防災・減災

雨水を一時的に貯留し、1～2日かけて地中に浸透させ水害を軽減する。(下水道負担の軽減)

窪地に砕石・栗石等で州浜を設け厚さを調整して雨水を貯留浸透させる。

## 日本庭園型緑地

「どこを見ても庭園のように設えられている“緑の文化首都・京都”」の実現

州浜、景石や樹木、地被植物等を配置した修景緑地

## 環境改善

- ・蒸散効果によるヒートアイランド現象の緩和
- ・地下水涵養と水質浄化

## 地域コミュニティ

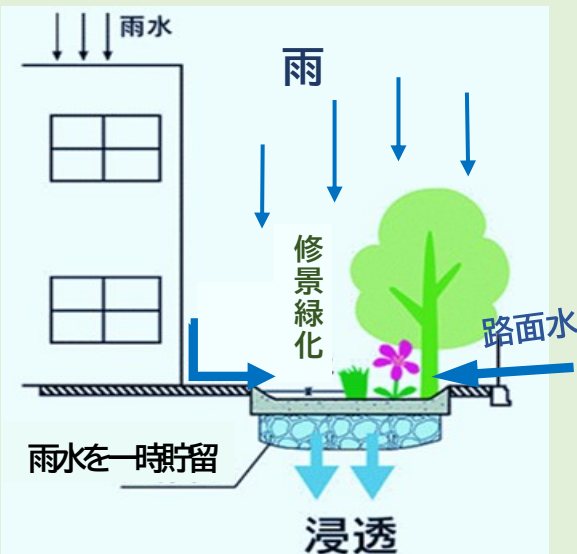
- ・地域を特徴付け、地域アイデンティティを創出する緑地
- ・周辺住民等との協働育成管理

## 自然学習の場

- ・生物多様性を実践する場
- ・教養施設としての活用

## 貯留・浸透のイメージ

雨水を一時的に貯留し一定時間をかけて地中に浸透させる防災減災緑地



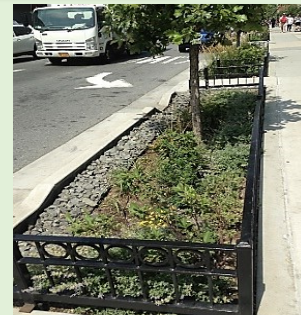
京都型の雨庭には多様な効果

## 世界の「雨庭」(先進事例)



レインガーデン(アメリカ型雨庭)は、住民提案から始まり、道路型・住宅型共に広く普及し続けている。

小規模施設を広範囲にわたり多数分散配置することで経済的な治水効果は絶大



### ポートランド市の歩道(アメリカ)

約40年前からグリーンインフラに取り組む、既に約1,300のグリーンストリートと48haのエリアを整備済みです。

シアトル市(アメリカ)では、宅地開発において公費でレインガーデンの設置を図っている。

### ニューヨーク市の歩道(アメリカ)

2005年のハリケーンによる水害を契機にレインガーデンの整備を進めており、2019年現在、約2,300箇所を整備しています。

※イギリス、ドイツ他多数先進例有

## 京を水害から守る古の“雨庭”技術



### 相国寺裏方丈庭園(1382年建立)

「枯流れ」は、斜面にスギゴケが張られ、流れの底には小石が敷かれ、小石の下には砂が敷きこまれているため雨水が地中に浸透していきます。

雨量が多い時には、実際の流れ(水面)が現れ、一定時間貯留した後、徐々に浸透していきます。

(公財)京都市都市緑化協会HPから

## 雨庭(GIと伝統的な造園技術が融合した京都型グリーンチャレンジ)

経験したことのない大水害の脅威に晒されている現在、今まさに京都型GI「雨庭」に重点的に取り組む時です。